

令和7年度 学校評価表(安来高等学校)

生徒・保護者アンケート(4択) 4: そう思う 3: どちらかというと思う 2: あまりそうは思わない 1: まったく思わない

生徒ルーブリック評価(5段階) レベル4: とでもできる レベル3: かなりできる レベル2: わりとできる レベル1: 少しできる レベル0: 全く・ほとんどできない

評価(学校)・・・達成指数100以上⇒評価A(目標達成)、達成指数90以上100未満⇒評価B(ほぼ達成)、達成指数90未満⇒評価C(不十分)

評価計画				生徒及び保護者評価				学校関係者評価					
教育目標	育てたい生徒像	育成を目指す資質・能力	目標達成のための方策の1つ	評価指標	R6年度	R7評価値	昨年比指数	評価	取組の結果と今後の展望(学校)	総合評価	委員からの意見等		
I きびしく(きびしく自らを律し)	よりよい(地域)社会の創り手として、自分自身を律し責任ある行動がとれる生徒	自分と向き合う力	当事者意識	生徒が主体的に学校行事に参加したと感じているアンケート評価値(生徒No1、保護者No1)	3.6	3.6	100	A	生徒は学校行事に意欲的に取り組んでいる。次年度は学園祭の開催方法を変更する予定である。検討するべき事項が多いが、生徒の主体性や表現力を育成する良いチャンスだと考える。	A	・部活動や学校行事に意欲的に取り組む生徒が多いのは良いことだ。各種行事への積極的取り組みは生徒の主体性を高める。生徒の自己有用感の向上を意識した支援を行っている。		
			自己研鑽力	文武両立を目指した学習指導や部活動指導が行われていると感じているアンケート評価値(生徒No4、保護者No4)	3.2	3.2	100	A	・体育系・文化系を問わず、全国大会や中国大会に複数の部活動が出場を果たした。 ・部活動との両立を目指し、補習や模試の在り方等を再検討するべきだという意見もあった。質の高い文武両道の実現に向けて、今後検討していきたい。			A	・受け身で過ごしてきた生徒は、自己研鑽力や自己調整力が弱い。生徒理解のために、地域の小中学校との連携を進めほしい。教科ごとの連携もできるとよい。
			自己調整力	キャリアパスポートによる振り返りと改善に関するアンケート評価値(生徒No6)	3.1	2.9	94	B	・各学期の最終日に、ルーブリック評価表による生徒の自己評価を実施した。生徒の自己評価が低い「学びに向かう力」「発信力」を向上させる取り組みを進める必要がある。 ・キャリアパスポートに関しては、活動状況の可視化および蓄積を目的としたポートフォリオとして、今後も活用を進めていきたい。			B	・探究学習やDX/ハイスクール事業等により、多くの人やモノと関わる事ができている。多様な経験をし、自ら考えることで、当事者意識や見通しを持つ力はついてくるのではないかと。
			見通しを持つ力	生徒の進路実現のための個々の課題と改善策について、検討会や模試分析によって教職員間で共有し、生徒と保護者に示す。	3.2	3.2	100	A	・個別面談や進路講演会、職業人講話、系統別ガイダンス等を通して、生徒が自分の進路について主体的に考える機会を創出した。 ・就職・公務員、専門学校、短大・四大と進路志望が多岐にわたる生徒が混在する集団に対する効果的な指導の在り方について、更に議論を進めたい。			A	・「文武両道」は高い目標ではあるが、重要性を生徒に示し続けるべきだ。高校でまいた種が、大学や就職先で花開くこともある。
II 高く(目標と信念を高く持ち)	新たな価値の創造(探究)し続けることのできる生徒	課題と向き合う力	学びに向かう力	12月の調査で平日に3点固定ができたと言った生徒の割合(%)	61%	68%	111	A	・平日の生活時間に関して、3点固定ができたと言った生徒の割合が高かった(1年生71%、2年生66%、3年生68%)。 ・「主体的に学ぶ自立した生徒の育成」を課題と感じている教員が多い。次年度に向けて、学力向上のための施策を各教科の実践レベルに落とし込んでいきたい。	A	・「主体的に学ぶ」とは具体的にどのような状態になることなのか、生徒にも具体的に示すとよい。 ・「3点固定」の重要性について保護者に伝え、協力を依頼する必要がある。 ・多くの学校で、探究学習が「教科横断的な学び」にまで深められていない現状がある。指導は難しいが、研究を進めてほしい。		
			課題発見解決力	課題発見・解決に関するアンケート評価値(生徒No9)	3.3	3.2	97	B	・「総合的な探究の時間」では地域の方々の協力を得て、対話的な学びが行えた。 ・テーマ設定に苦勞する生徒が多かった。次年度は生成AI「探究ポッド」の運用等を通して、テーマ設定のプロセスを構築したい。			B	・発信力育成のために、相手意識や目的意識を明確にしたプレゼン指導を行うしてほしい。優れた発表を見せることも有効である。生徒同士の評価だけでなく、大人の評価を加えていくことが必要だ。
			発信力	発信力に関するアンケート評価値(生徒No10)	3.3	3.3	100	A	・生徒会活動や総合的な探究の時間等を活用し、生徒が発表する機会を設定した。 ・生徒の自己評価は「発信力」が最も低かった。機会を設定するだけでなく、発信力や表現力を高める指導を行う必要がある。			B	・「自分の意見を適切に伝える」ことは社会人にとっても難しい課題である。まずは、発信する機会を設定し、経験を積ませることが大切である。
III 美しく(美しく豊かに生きる)	地域への愛着を基盤に多様な価値観を認め合う共生社会を生き抜く多様な価値観を認め合う共生社会を	他者と向き合う力	自己理解・肯定力	自己肯定感・自己有用感に関するアンケート評価値(生徒No11)	3.3	3.1	94	B	・自己肯定感に関するアンケート結果が低下した。SC事業や生徒支援組織を活用し、生徒個々に応じた支援ができるよう配慮したい。 ・授業はもちろん、学校行事や部活動等の機会を活用して、他者から認められる機会を創出する。	A	・探究活動で地域と関わる機会が多い。生徒が地域に出ることは地域にとっても大変ありがたい。地域連携を今後も進めてほしい。		
			他者理解・肯定力	人権に関するHRや学校行事・ホームルーム活動などを通して他者を思いやり大切に接する姿勢と態度を身に付けさせる。	3.3	3.2	97	B	・学年部と連携して、人権・同和教育及び道徳教育の充実を図った。次年度も良好な連携体制を継続したい。 ・SMS上の人権問題や生成AIの倫理的利用など、デジタル社会における新たな課題にも迅速に対応できるよう、人権・同和教育を更に充実させたい。			B	・SNSに関する問題は社会課題でもある。小・中・高の系統だった指導の必要性を感じる。デジタル社会で生きる生徒たちに、ガイドラインをきちんと示してほしい。
			協働する力	協働性に関するアンケート評価値(生徒No14)	3.5	3.4	97	B	・生徒ルーブリックでは、「協働性」が最も高評価であった。他者と一緒に学習・作業する活動が適切に行われていると感じている生徒が多い。 ・生徒の学力やコミュニケーション力の向上に繋がることを意識しながら、各活動で協働的な場面を設定したい。			A	・1年生の理系選択者が増えた理由は、学校の努力に加えて、鳥根大学材料エネルギー学部や地域企業との連携があると思われる。今後も推進していくべきである。
			協働する力	総合的な探究の時間だけでなく様々な学習において協働的な場面を積極的に設定する。	2.7	2.7	100	A					